

- 第6回国際絞り会議 ISS-2005 JAPAN  
SHIBORI—創世と進化—  
(TDA news 2005 VOL. 31)
- Cross Cloth - 新井淳一の世界展  
(TDA news 2006 VOL. 32)
- 四季を感じるアートブック「SIZUKU ～Goutte d'eau～」  
準会員 廣田純子さん スカイフィッシュグラフィックスから出版
- 産地企業のデザインへの挑戦  
準会員 梶原加奈子さん
- ひかりのいる近江の麻展  
—心地よい伝統の布から生まれる思いがけないモダンさ—  
(TDA news 2007 VOL. 34)
- 次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告  
2006 Fashion Show of the Future Designers in GIFU  
(TDA news 2007 VOL. 34)
- シルクロード・プロジェクト2007  
—芸術・生活文化を通しての交流— の旅を終えて  
(TDA news 2008 VOL. 31)
- 滋賀県能登川にファブリカ村オープン  
(TDA news 2010 VOL. 39)
- 前田英郎展  
(TDA news 2008 VOL. 36)
- 山口道夫展  
(TDA news 2009 VOL. 40)
- 新井淳一氏のRCA名誉博士号と傘寿に集う会  
(TDA news 2012 VOL. 42)
- 新井淳一氏の布  
—伝統と創生—  
(TDA news 2013 VOL. 43)

## 第6回国際絞り会議 ISS-2005 JAPAN SHIBORI—創世と進化—



ウェアラブルアート展会場



ヨーガンレール見学



染織工場見学



会場風景

The 6th International shibori symposium は2005年5月14日より22日まで東京での本会議と名古屋有松・鳴海でのポスト会議を合せて開催された。1992年第1回国際絞り会議が名古屋で立ち上げられて以来、第2回会議をインドで、第3回をチリ、第4回をイギリス、第5回がオーストラリアで開催されてきたが、第6回は海外からの熱いコールに答えて久方に日本で開催されることになった。絞り技法は世界の様々な国にその源をみる事ができる染織の原点のようなものであるが、今日では日本語である絞りが“SHIBORI”と世界共通語にもなった歴史がある。

今会議のテーマは(SHIBORI—創世と進化)

SHIBORIをキーワードに生産者、デザイナー、アーティスト、研究者、キュレーター等の専門家から次世代を担う学生、更に染織を愛する人々や繊維産業を支える企業関係者まで世界22ヶ国より、内外合わせて500人余の人々がこの会議に参加し「テキスタイル・クリエーションの問題点」や「今日と未来」について語り合った。伝統的な仕事は勿論であるが、今日では古典的なイメージを大きく超えて広くファッションやインテリア・ファブリックスをはじめテキスタイルデザインの最前線と先端テクノロジーと結びつき熱くクローズアップされている。むしろ日本の社会では一般的に浴衣や着物にまつわる伝統的な絞りの認識が強く、新しい動きにうといのではないかと思った。しかし Issey Miyake や菱沼良樹の仕事をはじめ多くのファッションデザイナー達が絞りのデクスターを応用し、進化をうながしているのだが気付いていない人が多いように思う。会議は世界で注目される三人の基調講演者 ホリー・ホッチナー(ニューヨークのアートアンドデザインミュージアムの館長)、バジリス・ジディアナキス(話題のファッション展を企画したギリシャのキュレーター)、皆川魔鬼子(イッセイミヤケ取締役、日本を代表するテキスタイルデザイナー、多摩美術大学教授)をはじめパネルディスカッション、14のシンポジウム、9つのワークショップ、8種の見学ツアー、12の展覧会、パフォーマンス等多彩なイベントが演出された。外務省、文化庁、経済産業省、NHK、各新聞社、文化財団企業など多くの後援を受けたが、TDAも後援に名を添えた。はからずもこの国際会議の実行委員長を受ける羽目になったが、大任を無事終えることができ会場を提供して下さった多摩美術大学や、協力下さった方々に心からの感謝を述べたいと思う。この会議を通して世界の新しい仕事師達や様々な専門家と出会い交流し、その技と思考を学び、刺激し合えたことは繊維文化と繊維産業の未来に一筋の光明をみる事が出来たのではないかと思っている。

(わたなべ ひろこ)